（添付資料）

■研究の背景

ChatGPT などの生成 AI は急速に普及し、総務省『情報通信白書』（2026 年版）によると、生成 AI を使ったことがある人の割合は日本では 2024 年度の 26.7%から 2025 年度には 58.8%へ急増しましたが、米国・ドイツ（各 75.6%）、中国（93.6%）にはなお及びません。

これまでの研究の多くは一時点の調査で「使っているかどうか」に注目してきました。しかし、使い始めた後に何に使うのか、使い方が「やめられない」などの問題のあるものになるのかは人によって大きく異なり、こうした「使い方の格差」が「入口の格差」と同じ人たちに生じるのかは分かっていませんでした。

研究グループは、1 回目の調査で生成 AI を一度も使ったことがなかった 9,411 人を 1 年後に追跡し、使い始める前に測った 49 の特徴を①個人的要因（年齢・性別・健康・心理的苦痛・孤独感・子ども時代の逆境・性格など）、②社会的地位要因（学歴・同居・就労・職種など）、③利用可能な資源的要因（世帯収入・人とのつながり・機器の使用時間）に分けて整理し、利用の開始と使い方との関係を調べました。AI の利用開始前に特徴を測って追跡し、関連性を確認した本研究は世界に先駆けた大規模研究と言えます。また本研究は、2026 年 1 月 13 日発表の「生成 AI を使う人・使わない人の違いが明らかに」の続報で、同じ調査の回答者を追跡したものです。

■参考文献等

総務省『情報通信白書』（2026 年版）
https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/pdf/00zentai.pdf

2026 年 1 月 13 日千葉大学ニュースリリース「生成 AI を使う人・使わない人の違いが明らかに」
https://www.chiba-u.jp/news/files/pdf/250113_AIdivide.pdf